

事業報告書

令和 1 年度版



～令和1年度の主な事業～

社会福祉法人 未来こどもランド

社会福祉事業

第二種社会福祉事業

保育所 練馬区立石神井町つつじ保育園

保育所 練馬区立光が丘第十保育園

放課後児童健全育成事業 未来こどもランド学童保育

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる石神井

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる高野台

障害児通所支援事業 放課後等デイサービス すまいる・ステップ

障害児通所支援事業 児童発達支援 すまいる・キッズ

障害児通所支援事業 放課後等デイサービス すまいる・ツリー

障害児相談支援・特定相談支援事業 未来こどもランド すまいる相談支援室

障害福祉サービス事業 就労継続支援B型 すまいる・フォレスト

地域社会貢献事業 「みんなのカフェ」すまいる・ヴィヴィファイ

◆法人◆

1) 概 略

○法人名 社会福祉法人未来こどもランド

○所在地 東京都練馬区谷原5-22-2 MKLビル

○代表理事 栗原三津子

○設立認可年月日 平成26年4月8日

○法人登記年月日 平成26年4月8日

2) 理事、監事、評議員

今年度の理事（6名）、評議員（7名）、監事（2名）は次の通り

理事長 栗原三津子

理 事 桂久美子 岩瀬秀明 平山晴一 鈴木真 東江福江

評議員 相澤 愛 平田美穂 田中哲子 村上環 遠藤由美子 長島庫子 石井孝弘

監 事 田渕順三 船越敏万

3) 理事会の開催状況と主な決議事項

開催日時

◇令和1年6月11日◇

- ・H30年度決算の承認決議
- ・新理事の承認
- ・議長の選任

◇令和1年9月20日◇

- ・中長期計画に関する決議
～学童事業の継続の是非 他
- ・谷原ビルの大規模改修についての決議
- ・評議会の開催

◇令和2年3月19日(木)◇

理事長の業務執行報告

- ・令和元年補正予算に関する決議
- ・令和2年度予算案に関する決議
- ・就業規則改定に関する決議
～就業規則/賃金規程/各種規定・各種手当

◇令和2年4月7日(月)◇

【決議の省略】に基づき同意書による決議

- ・就業規則・住宅手当の追加要件についての決議

令和2年4月8日

令和1年度 石神井町つつじ保育園 事業報告書

- 1 受託事業者名 社会福祉法人未来こどもランド 石神井町つつじ保育園
2 受託開始年月日 平成18年4月1日

3 全体概況

(保育)

令和の初年度は時代の変化を大きく感じた年となった。子どもの多様性に対し保育が追い付いていかない現状があった。ある幼児が愛着関係障害から感情をコントロールする力の未熟さによる言動があった。他児への影響が大きく、クラス全体の保育が崩壊する事態となった。全体会議で時間をかけて討議し方針を決めていった。他クラスからの応援や子ども自身の成長もあり、年度末には友だちと遊ぶ時間が伸び、他者への乱暴な言動が減ってきた。担当保育士への負担を軽減するため、全員で考えヘルプすることが実践できた。障害児の巡回指導の際には、認定されていない子どもをみてもらいたいという希望が多く年々増加傾向にある。10名を超える対象児のため、2回にわたって指導を受けた。今後、多様な子どもの保育は保育側が柔軟な対応で、一律に指導をするだけではなく、個が求める主体的な学びを重視していくことが自己肯定感のある前向きな子どもの育成に繋がる。次年度への課題である。

予定された行事は、天候による場所の変更などはあったものの全て実施できた。しかしながら令和2年1月下旬頃より、新型コロナウイルス感染の脅威に対応しながら、年度末には、三密を排除した形で卒園式を行った。新年度へも引き続き感染症予防対策や気候変動に対応しながら、子どもの健康を守ることが課題である。

(保護者対応)

4年前より卒園に関する保護者の意見が一つにまとまりにくくなり、ラインでの炎上を始め、昨年は茶話会に参加しない保護者が複数いるなど、保護者が子どもを中心に協力し合う姿を期待することは年々難しくなっている。保護者の価値観の多様性を踏まえ前年度の保護者会で卒園アルバムは園で作る事や茶話会は無しとする提案を行い、全員の親の承諾を得て、今年度が二つの提案を無くする最初の年となった。今年度は特に問題なく卒園できた。

(父母会)

7年前より父母会役員からつつじっこ祭りの打ち合わせの回数を減らし、父母への負担を減らしてほしいとの意見が毎年あり、要望を受けて父母の負担を減らしてきた。現

状としては父母会長はじめ役員を決める難しさと、さらに子育てと仕事と両立に加え、父母会活動の負担を重く受け止める父母が多い。このような背景を基に父母会幹部は、父母会を無くす提案を父母全員にし、3月末で父母会として会を無くす決議に至った。

今後も多様な保護者の考えを理解しながら、子育ての楽しさや親の役割などを自ら学べるような企画を考えたり、常に十分な説明と承諾などを基本に据え、保育園との信頼関係を構築していくことが課題となっていく。

(職員育成)

昨年に引き続き、室内環境について理論を活かした保育室の設定を考え、職員が学び合う機会を全体会議で持つことが出来た。また職員一人ひとりの保育の質を高めるためにキャリアアップ研修や実技の研修の参加を進めた。保育園職場の組織強化のためにリーダー研修や中堅研修へ積極的に参加した。次年度は職員がこの仕事を選んだ原点に立ち戻り喜びと責務を感じ取れるような研修を（園内・外部）企画していきたい。

園庭や室内での遊びの充実を図るため玩具など購入をしたが、遊ばせ方などについて拡がりがなかった。次年度は乳児の友だちへの嘸みつき・多様な子どもたちをテーマにしながら、職員が子どもの遊びについて交流する機会を持ち、子どもの望む遊びについて勉強を深めていきたい。

新年度は人事考課制度により、自分の仕事や生き方に気づく機会とし、目指す方向が見えてくることを課題とする。

4 職員構成 様式1のとおり

5 年間行事実施状況 様式2のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月
保健だより	毎月
えいようだより	毎月
クラスだより	随時

5

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観（参加）	個人面談	その他 （ ）
0 歳	5 / 1 4 2 / 1 9	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
1 歳	4 / 1 5 2 / 2 0	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
2 歳	4 / 1 6 2 / 2 1	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
3 歳	4 / 1 7 3 / 4	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
4 歳	4 / 1 8 3 / 5	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
5 歳	4 / 1 9 1 / 1 7	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第 1 回	11 月 22 日	1 8 : 3 0 ~	石神井町つつじ保育園ホール

8 障害児保育

2 歳児、3 歳児、4 歳児に一人ずつ障害児が在籍。年に 2 回の巡回指導を受けた。4 歳児の A は友だちへの興味を具体的行動として現すことが増えてきた。集団の中で活動する楽しさがわかるなどの心の伸びが著しいが、A の保護者はまだまだ普通児との差が大きいと感じている。3 歳児クラスの B は発作の起きる回数と起きた後の眠る回数が少しであるが減ってきた。薬を変更した時は、発作の回数が増える傾向がある。保育中は発作の強い時や無いときなど一定ではないため、依然として発作が起きた時に柵にぶつかるなど怪我へのリスクは高い。また自分の気分や気持ちを態度で表現が出来るようになり、周りの空気感を読むようになってきている。時折バイバイと手を振ることを見せたり、言葉を似たように発することがあり、言葉がでる兆しを感じられるようになった。2 歳児クラスの C は集団の中で順調に伸びている。理解力・行動力など年齢相応であり、両親は早く障害児の枠から外したいと望んでいる。巡回指導の先生に相談中である。

9 職員研修 様式3のとおり

10 特別保育 様式4のとおり

11 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況(子育て支援、ふれあい交流、家庭的保育者児童への給食サービスなど)

月	事業名	事業内容	参加者数
4月	つつじっこくらぶ	交流地域事業・ふれあい給食(地域)	雨天中止
5月	つつじっこくらぶ	交流地域事業・ふれあい給食(地域)	78
6月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	186 6
7月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	27 11
8月			
9月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	89 5
10月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	80 7
11月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	焼き芋・交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	145 11
12月	つつじっこくらぶ ふれあい給食	交流地域事業・ふれあい給食(地域) 家庭的保育事業者	120 2
1月	つつじっこくらぶ	新年祝い会・交流地域事業 ふれあい給食(地域)	129
2月	つつじっこくらぶ	交流地域事業・ふれあい給食(地域)	191
3月			

12 給食(アレルギー対応や安全、衛生管理について)

入園前の情報に基づき、面接時に栄養士や看護師が保護者より詳しく聞き、医師の診断によるアレルギー除去指示書をもらい、3月中に非常勤職員を含む全職員で園児のアレルギーの状況を共有した。アレルギーガイドラインが令和2年4月から変更するにあたり、2月からの試行を前に栄養士より全体会議で全職員に研修を実施した。また関係する非常勤職員についても研修をした。そして保護者一人ひとりに詳しい説明を了承しサインを頂いた。看護師から入職時に新人職員へアレルギー症状の対応など全般についての研修を実施した。今年度は看護師を中心に全職員が危機管理の意識を高く持つよ

う、ヒヤリハットの用紙に記入された案件を中心に対策を考え、全体会で発表した。発表内容は職員や非常勤職員がいつでも見る事が出来るように、体制表のトップに案件と対策を書いたものを置くようにした。看護師に提出される用紙の減少傾向が出てきた時は全体会議で注意喚起をした。重大事故に繋がりそうな案件は全体会議で原因と対策を園全体で共有した。職員の連携で誤食事故には至らなかった。

衛生管理については衛生点検表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に気を付けていくようにした。食事時の園児の嘔吐物がかかった食器の始末については、マニュアルに従って消毒をした。また床などの嘔吐物の始末についても、流行する前に全職員で処理の仕方を復習することで、慌てずに素早く対応できた。非常勤職員の入れ替わりの際には漏れることなく看護師が指導にあたった。また電解水導入をして二年経つが、日常的に電解水を使つての消毒が根付いてきた。新型コロナウイルス対策では看護師と栄養士を中心に区の方針に従って衛生・安全を保つため全職員へ指導に当たった。食事の介助や配膳時のマスク着用・子どもによる配膳の中止など感染のリスクを減らして年度末を迎えた。

13 園児の健康管理

(1) 実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	有
0歳児健診（月1回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		

(2) 感染症等への対応について

新入職員（正規・非常勤）へ入所後すぐに、看護師より研修を行い、実際の嘔吐物や下痢などの処理のしかたを実践できるように個別指導をした。感染症の情報の収集を行い、職員・保護者にもタイムリーに情報提供を行ってきた。園児には手洗いやうがいなどの健康指導を看護師が行い、園児にも予防についてわかりやすく伝えた。職員トイレには通年、プッシュ式の液体洗剤を置いた。また玄関には通年、手指の消毒液を置き、保護者に利用して頂いた。インフルエンザ発生には敏速に対応し、感染拡大を防ぐために早番や遅番をクラス別にするなどの初動対応を行い、大人も子どもも全員が咳エチケットとしてマスクを着用した。新型コロナウイルス対策としてインフルエンザ同様に手洗い・体温測定を家庭と協力して行い、感染拡大時には全職員がマスク着用・電解水を携行した。卒園式では、三密を防ぎ全員出席で行うことが出来た。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に研修をした。また年度初めの職員会議では、個人情報の管理の徹底のため基本的に事務所からの持ち出しを禁止していることを伝えた。書庫から児童票・カメラを持ち出す際には、使用者の氏名と借入日時と返却日時を書くようにした。返却日時の無記入についてはその日のうちに所在を確認し記入を徹底した。カメラは必ず事務所に忘れずに返却することとカメラのメモリーが内蔵されているか複数で確認をしてきた。日々、全クラスのカメラが揃っていた。情報セキュリティーについては、全体会議で園内研修をし、チェック表を全職員に実施したところ意識を持って仕事をしていることがわかった。保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し全世帯から同意書を得た。保護者による卒園アルバム制作はなくなり園に任せてもらうことになったが、園と業者間の映像のやり取りはパソコン上で行い、メモリーの紛失の心配は無くなった。園のパソコンは業者によるネット関係のウイルス対策をとり安全性を確保した。

15 各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書 15 に定めた内容として）	○
情報セキュリティーポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書 14 の 9 に定めた内容として）	○

令和 2 年 4 月 1 日

令和 1 年度 光が丘第十保育園 事業報告書

1 受託事業者名 光が丘第十 2 受託開始年月日 平成 25 年 4 月 1 日

3 全体概況

一人ひとりの子どもが主体的な活動が出来るように保育計画に基づき指導計画を作成、職員全員で確認している。また、子どもの状況や季節の変化に合わせ月の指導計画を作成、職員会議では、各クラスの状況や困っていること、そのことについての意見やアドバイスを全職員で出し合い、話し合うことで職員の保育の質を高め子ども達に向き合うことをめざしてきた。

災害に備えて避難訓練、防災訓練、不審者訓練を定期的実施し安全管理、危機管理について職員、子どもの意識を高めてきた。また、全職員が職員マニュアルを持ち、様々な場面でもすぐ対応できるようにしている。また、ヒヤリハットの記録を徹底し、全員で検証する時間を持ち、大きな事故に繋がらないようにしている。SIDS の取り組みとして、0 歳児はうつぶせ寝にしないこと、5 分おき、1, 2 歳児は 10 分おき、幼児クラスは 15 分おきの午睡チェックを徹底している。

保育環境について、研修を受けた職員が講師になり園内研修を行った。その他の研修についても同様におこない保育士の質の向上を目指している。

4 職員構成 様式 1 のとおり

5 年間行事実施状況 様式 2 のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月、随時 年 12 回 ()
保健だより	毎月、随時 年 12 回 ()
えいようだより	毎月、随時 年 12 回 ()
クラスだより	毎月、随時 年 12 回 ()
	毎月、随時 年 回 ()
	毎月、随時 年 回 ()

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観（参加）	個人面談	その他 ()
0歳	5月7日	8人	8人	
1歳	5月8日	11人	11人	
2歳	4月22日	19人	19人	
3歳	4月23日	11人	11人	
4歳	4月24日	19人	19人	
5歳	4月25日 1月17日	13人	13人	

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	10月25日	6時30分～	保育園年長保育室
第2回			
第3回			

8 障害児保育

5歳児3名、3歳児1名の障害児を受け入れている。5歳児の一人は初めて集団に入り、子ども達の刺激をうけ、こだわりが少なくなり成長がみられた。また、一人ひとりの障害の状況や発達に合わせて保護者と共に連絡を取り合いながら育て成長を見守ることが出来た。保護者の希望により、巡回指導の先生の話を保育士と一緒に聞き、関わり方を学ぶことも出来た。5歳児については就学先についても相談を受け、話を聞いたり資料を渡したりしてきた。職員も外部での研修の他、園内研修を全職員で受け、同じ話を聞いたり、同じ子どものことで共通の支援方法を学んだりしてきた。
--

9 職員研修 様式3のとおり

10 特別保育 様式4のとおり

11 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭的保育者児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4 月	無		
5 月	地域交流	子育て支援（起震車体験）	雨のため無
6 月	地域交流	子育て支援（リズム遊び・ふれあい給食）	4 名
7 月	地域交流	子育て支援（七夕コンサート）	21 名
8 月	無		
9 月	地域交流	子育て支援（リズム遊び）	8 名
10 月	地域交流	運動会（地域競技に参加してね）	2 名
11 月	地域交流	環境学習	2 名
12 月	地域交流	子育て支援（人形劇を見に来てね）	雨のため無
1 月	地域交流	子育て支援（新年お祝い会に来てね）	8 名
2 月	地域交流	子育て支援（豆まきして鬼尾泰司）	16 名
3 月	無		

12 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

4 月当初 4 名のアレルギー児、7 月に入りメロン、赤魚の 2 人が追加された。9 月に赤魚の 2 人が解除になり、3 月から小麦、卵によるアレルギー児が減ったため、現在 3 名のアレルギー食を提供している。毎月アレルギー会議を行い、栄養士、看護師、保育士で確認している。その際マーカーで一人ひとりを色分けし献立表に記し、プレートには除去食品、名前を表記している。

台拭き、おしぼり、エプロンは他児とは区別し洗濯も別に行っている。給食を受け取りに行く際の注意事項は全職員意識し（非常勤含）確認している。子ども達に対しても話をしている。

13 園児の健康管理

(1) 実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	○	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	○
0 歳児健診（月 1 回以上）	○		
歯科健康診断（春・秋）	○		

(2) 感染症等への対応について

区の感染症マニュアルを全職員で確認し感染予防に努めている。感染症の情報収集を行うとともに、保護者に情報を提供し、感染拡大を防ぐ意識の大切さを知らせている。

インフルエンザの予防接種は全職員が受けている。消毒には安全性を考慮し電解水を使用し、0 歳児の遊具消毒にドーバパストリーゼを使用している。舐めたらすぐに消毒できるように、0 歳児室には 6 カ所消毒用の布を設置している。職員がウイルスを持ち込まないために、出勤したら、通勤着から仕事着に着替えること、上履きを履くこと等を徹底している。年度末、コロナウイルスによる感染症の問題が発生し、都、区からの指示に従い拡大に繋がらないようにしてきた。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

就業規則で個人情報保護法に基づく遵守が定められており、採用時には研修を実施している。入園説明会や保護者会で説明し、個人情報の利用目的について承諾書を提出していただいている。職員会議では、個人情報の管理について事例検討し管理の徹底をしている。

15 各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書 15 に定めた内容として）	○
情報セキュリティポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書 14 の 9 に定めた内容として）	○

令和 2 年 4 月 15 日

令和 1 年度 すまいるベリー保育園事業報告書

1 事業者名 社会福祉法人未来こどもランド すまいる・ベリー保育園

2 事業開始年月日 平成 27 年 4 月 1 日

3 全体概況

調理師が前年度末に 1 名、今年度初めに 1 名退職となった状況に対して、調理師の人員確保に尽力して頂いたことと、石神井町つつじ保育園の栄養士・調理師の協力を頂いたことで、当園の調理業務に支障をきたすことなく運営することができた。新しい調理師 2 名の内、1 名は栄養士資格を取得している為、食材の発注や献立表作成も当園で行うことができるようになった。また、給食会議を行い、栄養士と保育士との連携を図りながら、子どもの発達に合わせた給食の提供ができるようになった。

前年度末に非常勤職員の保育士 2 名が退職となり、石神井町つつじ保育園より正規職員の保育士 1 名が異動してきた。常勤職員の保育士が全員で 6 名となったことで、安定した勤務体制を組め、子どもたちにも安定した保育を提供することができた。

利用定員については、2 歳児は 10 名、1 歳児は 6 名、0 歳児は 5 名、全クラスで 21 名定員でスタートしたが、7 月からは、1 歳児クラスに新入園児が 1 名加わり、利用定員は全員で 22 名となった。

職員研修については、応急手当や東京都主宰の出前研修「あそびの捉え方と環境設定」を実施し、非常勤職員を含む全職員が受講することができた。「あそびの捉え方と環境設定」では、環境の大切さを学び、それぞれの発達段階を捉えて、環境をどう整えていくかを職員間で考えるきっかけとなり、職員の意識が変わった。発達段階に応じて、子どもが自ら遊び出せるような環境設定の工夫がみられるようになった。

キャリアアップ研修については正規職員を対象に「乳児保育」「保健衛生・安全対策」「障害児保育」を受講してもらい、練馬区主宰の研修では「調乳と離乳食の基礎と実践」「発達の観点からみた障害児保育」を受講してもらった。栄養士には「食物アレルギー対応と食育について」を受講してもらった。

研修で学んだことを、非常勤職員も含めた全職員に伝えてもらい、職員間で共通理解できるようにした。（研修の報告を受けた非常勤職員にも、どんなことを学んだかを書いてもらい記録に残した。）研修はそれぞれが専門知識を高める機会となり、その結果、子どもたちが伸び伸びと成長し安定した生活を送ることができた。

保護者が参加する行事については、あそぼう会では、上石神井中学校の体育館をお借りすることができなかった為、関中学校の体育館をお借りして実施した。場所が一駅先で少し離れていたが、子どもたちも保護者も喜んで参加していた。年度末の大きくなったね会については、新型コロナウイルス感染防止対策の為、中止となった。残念に思う保護者がいた為、少人数（2～3 家族を目安）と短時間と換気を配慮した上

で、大きくなったね会の練習風景や子どもたちの遊びの風景等をビデオで観ていただき大変喜ばれた。

今年度も、法人内連携として石神井町つつじ保育園の看護師には、ほけんだよりの提供を頂いたり、園児の健康面や怪我等の相談もさせて頂いた。また、新入园児健康診断のお手伝いを頂けたことで、健康診断がスムーズに実施できた。管理栄養士には栄養便りの提供を頂き、保護者にも喜ばれている。

地域交流に関しては、近隣の方や散歩先で出会う方々にこちらから気持ちよく挨拶するよう心がけた。また、公園へ持っていく玩具を一般のお子さんにも貸すなど、一緒に遊べるよう配慮した。

連携施設については、卒園後の受け皿として引き続き、白ふじ幼稚園と協定書を締結することができ、卒園児1名が入园することができた。関町カトレヤ幼稚園とも連携施設の協定を締結することができ、卒園児2名が入园することができた。保育内容の支援に関しては、上石神井第二保育園と協定書を締結することができた。ゴミ収集のスケルトン車が来る際に一緒に見せていただくことができ、子どもたちも大変喜んでいた。(2歳児クラスのみ) 代替保育(保育内容に関する支援および相談等を含む)の連携施設については、石神井町つつじ保育園と連携に関する覚書を締結することができた。

職員の労働面では、できるだけ勤務時間内に業務を終わらせ、残業をしないよう工夫した。また、正規職員は所定労働日数に準じ、土曜日に出勤した月は振替休日(公休)を取るなど月単位で日数を調整した。非常勤職員は、週40時間労働制に準じた体制を組むことができた。土曜日の勤務については、常勤職員の8時間勤務に加え、非常勤職員の2時間勤務の体制を組むことが難しかったので、常勤職員に11時間勤務を依頼せざるを得なかった。(非常勤職員に2時間勤務を依頼していても、急に児童が欠席となってしまったり、また、急に早くお迎えが来てしまう等の事情から)平日は、会議以外で超過勤務することが殆ど無いよう配慮しているため、土曜日に関しては、子どもの保育による超過勤務の発生は致し方無いと判断し、常勤職員に協力して頂いた。

4 保護者会等実施状況

- ・保護者会⇒ 5月25日(土)0歳児、1歳児、2歳児 各クラス時間差で実施した。
各クラス、約2か月間の子どもの姿(遊びや生活場面)の写真を観ていただきながら、子どもたちの楽しんでいる姿や成長の姿をみて頂いた。
- ・個人面談⇒ 10月中旬に保護者のお迎え時間帯に合わせて実施した。
普段じっくりと話ができない保護者と話しができたことで、保護者の悩んでいることがわかり保護者へのサポートへと繋がった。

5 地域との連携

・地域交流・地域子育て支援

項目	実施内容	実施回数 参加者
地域交流	2歳児クラスと職員（調理師・保育士）でクッキー作り、近隣の方へ日頃の感謝を込めてクッキーをお届けした。	1回 2歳児クラス 調理師・担任保育士
地域子育て支援	保育所体験	5回
地域子育て支援	出産を迎える親の体験学習	0回
地域子育て支援	小中学生の育児体験受け入れ	0回

6 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

0歳児クラスにアレルギー除去食（卵）の児童が1名。園長が保護者から聞き取りをし、医師の診断によるアレルギー除去食指示書を受理する。（アレルギー除去食指示書受理の際に保護者と内容を確認）非常勤職員を含む全職員で対象児のアレルギー状況を共有した。また、すまいる・ベリー保育園のマニュアルに沿って対応した。

衛生管理については、衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に十分配慮してきた。食事中に園児の嘔吐物が食器にかかった際の始末については、マニュアルに従って消毒をした。研修で全職員に処理の仕方を伝えたので、慌てずに対応することができた。

7 園児の健康管理

	実施の有無
健康診断（春・秋）	有
身体測定（月1回）	有

8 感染症等への対応

4月1日に全職員に汚物処理マニュアルを配布した。汚物処理セット一覧表も作成し、必要な物をまとめてチャック付きのビニール袋へ入れて、全職員がいつでも迷わずに使用できるようにした。

今年度1月後半には、国内でも新型コロナウイルス感染が発症し始め、2月頃からは、新型コロナウイルス感染症情報が練馬区より頻繁に入るようになった。情報は速やかに職員と保護者に伝え情報を共有した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、園児に対しては、室内に入る際や食事前は丁寧に手を洗うよう援助してきた。子どもも大人も除菌作用のある液体石鹸での手洗いを実施した。各手洗い場と玄関には（通年）手指のアルコール消毒を設置し、保護者にも入室の際は手指の消毒をお願いした。室内の換気や床、棚、テーブル、椅子、玩具など園内の消毒も徹底した。

保育者のマスクの着用は勿論、保護者にも送迎の際はマスクの着用をお願いした。マスクを入手できない方には、手作りのハンカチマスクの着用を推奨し、簡単な作り方を掲示して協力を求めた。

9 個人情報について

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に書面で確認している。児童票などの保育書類やカメラは事務所の鍵のかかる場所に保管している。

カメラの使用時、返却時には「カメラ持出し表」に日付、クラス、名前、持出し時間、返却時間、持出し理由を記入し返却忘れが無いよう徹底した。保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し「個人情報提供同意書」を全世帯から得た。保護者に対しては、ネットでの写真を流出するなど、個人情報を公開することのないようお願いした。

障 害 児 通 所 事 業

令和 1 年度 放課後等デイサービス すまいる・ステップ事業報告書

利用定員 1 日 1 0 名

利用契約者数 24 名

職員人数 7 名

児童発達支援管理責任者（保育士） 1 名 保育士 2 名 児童指導員 3 名 指導員 1 名

利用実績表（実際に利用した人数）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	半期合計
実績数	208 名	208 名	214 名	266 名	206 名	229 名	1,331 名
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
実績数	227 名	245 名	215 名	231 名	201 名	199 名	2,649 名

日々の活動について

- ・小学 1 年生が増えたため、4 時間以上の長時間保育が増加。
- ・石神井特別支援学校の 1 便のお迎え時間が早くなった為、非常勤職員の出勤時間を 1 5 分早めた。
- ・安定した運営が行われるよう定期予約だけでなく、欠席者が入った場合のスポット利用への働きかけを積極的に行った。
- ・買物練習では、不二家に加えてミスタードーナツにも挑戦。事前にお店にもご挨拶と予定をお伝えして、ご協力を頂いた。保護者からの評判も良かった。

年間計画

- ・夏休みの一日保育は、光が丘の「われもこう」で昼食、板橋教育科学館へ行った。
- ・すまいる・ツリーとすまいる・ステップの合同イベントを夏休み・冬休みに行った。
- ・保護者会を 5 月に実施。感覚統合、ステップでの遊びの意義、日頃の保育の説明を行った。

今後の課題について

- ・「利用者基礎情報表・感覚チェック表」を基に、お子様の困り感を知り配慮しながら支援ができるように専門性を高めていく。
- ・職員の役割分担の見直しと共に新人職員の育成を図ることで、より一層チームワークよく保育、療育に反映できるようにしていく。

令和1年度 放課後等デイサービス すまいる・ツリー事業報告

利用定員 1日10名

利用契約者数 27名

待機登録者数 なし

職員人数 7名

児童発達支援管理責任者1名 保育士1名 児童指導員 3名 指導員2名

利用実績表 (実際に利用した人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	248名	228名	234名	257名	214名	219名	1,400名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	236名	250名	232名	204名	216名	226名	2,764名

日々の活動

レクリエーション ゲームなどをしながら他者意識の向上を図る
トランプ・カルタ・すごろく・机上のゲーム・脳トレなど

音楽 馴染みのある曲に合わせて楽器を演奏したりダンスを楽しむ
季節の曲に合わせて拍打ちなど行った

買い物 実際に近所のコンビニを利用して、公共のマナーを学ぶ
自分のおやつ購入の為、モチベーション高く楽しみにしている。

おやつ作り 季節の簡単なおやつを作り、達成感や偏食に働きかける
お月見団子・ピザ・パフェ・スイートポテト・ホットケーキ等

運動 バランスディスク、ハードル、平行台などを使い、楽しく体を動かす
ラーメン体操、フープを使ったストレッチをして整理運動をした。

避難訓練 年4回実施。火災時と地震時に備え、ヘルメットを被り避難経路を知る
年に2回非常階段を使用して避難する。また体育館で発生した場合も練習した

工作 ハサミやのりなどを使用し、母の日のプレゼントや写真たて、
七夕飾り、風鈴、ハロウィンオブジェ、紙漉き、木の枝を使ってツリー作り

今後の課題

一人一人が自己研鑽しながら、職務に当たるようにする。利用者の情報共有を密にしながら、職務に当たる。計画書の段階で、どの利用者もまんべんなく達成できるようによく考えながら、計画書を作成する。

令和1年度 児童発達支援 すまいる・キッズ 事業報告

利用定員	10名（1日）
利用契約者数	28名（2020年3月現在）
職員人数	5名（前年度同様） 管理者及び児童発達支援管理責任者1名 保育士3名・指導員1名

利用実績数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	114	125	148	142	122	160	811
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	160	154	156	170	144	156	1751

※利用実績数は、祝日、天候、体調（利用児、保護者、兄弟）、行事（幼稚園、保育）等により変動する。

新規実施内容

【つつじっこくらぶへの同行】

前年度の児童発達支援ガイドライン評価表アンケートの結果、未就園児の保護者から『保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会が欲しい』との回答が多く寄せられた。そのことから同法人内、石神井町つつじ保育園の協力を得て、希望者親子に保育者も付き添う形でつつじっこくらぶ実施日の内4回（雨天により中止1回を含む）に3組が参加し、園庭で在園時と一緒に過ごすことができた。

来年度は、その他の交流事業への参加も募り、更に参加機会を増やしたい。

【未就園児保護者対象 プチ保護者会】

未就園児グループ保護者は毎回療育に付き添うことから保護者、キッズ双方の希望で随時面談を行い、その中に保護者会内容も含むようにしてきた。今年度は、随時実施の個人面談に加え、療育時間内に別室にて同じグループの保護者（4～5名）参加のプチ保護者会を実施し、内容は時期毎に『年間・日々のねらい』『就園先選びのヒント』等とした。積極的に発言する保護者もあり、捉え方や選択肢の広がりが見られた。来年度も保護者に寄り添った内容で継続したい。

実績及び来年度に向けて

就園児グループ（3～5歳児混合、母子分離）は定員を7名に増やした。小集団の中で社会性、対人性に重点を置いた療育をねらいとしたが、幼稚園、保育園の行事、各家庭の都合、体調等で出席児が少ない日も多く、療育内容の積み重ねや小集団の利点を生かすことが難しかった。そのため来年度は定員を9名に増やすことで、小集団が構成できるようにしたいと考えている。

放課後児童健全育成事業

令和1年度 未来こどもランド学童保育 事業報告

◆定期利用児童 8名

◆一時預かり枠登録者（定期スポット、単発スポットを含めて） 30名

◆対象児童 小学1年生～小学6年生

日々、アットホームな保育を心がけており保護者との連絡や連携を密に持つよう心掛けている。子ども達の心の安定、日々の健康に留意して学校生活、宿題、遊びとメリハリのある生活ができるよう職員も気を配って保育をしている。今年も夏休み、冬休みの長期休み利用者は多かったが、定期利用の児童数が減少している。

令和元年10月に石神井施設が5年計画となり、その後は、閉鎖をすることを保護者に説明をする。そのうえで来年度の利用希望を取ることにした。

地域子育て支援拠点事業

民設子育ての広場 すまいる石神井 事業報告

- ◇開催曜日： 月～金
- ◇公園遊び： 月曜日（不定期）
- ◇開催時間：10時～15時

子育てひろばでは、毎月イベントを開催し多くのお子さんや保護者の方に来館して頂いた。

「おたのしみタイム」では手遊び・絵本の読み聞かせの他、季節の行事を取り入れ親子で思い出に残る製作を行った。また、つつじ保育園の栄養士の先生に来て頂き離乳食講座を開催。離乳食のお話だけでなく、実際に1～3回食を作って頂き試食会・栄養相談も行い、お母さん方に大好評だった。防災センターの方にも来てもらい講話やAED体験もできた。

また、高野台の施設と合同のこうえんあそびやクリスマス会などはすぐに予約が終了するなど好評でお母さん方の情報ネットワークの早さには驚くこともあった。

孤育てにならないよう、保護者の方に寄り添い少しでもサポートできるようにこれからも取り組んでいきたい。

民設子育ての広場 すまいる高野台 事業報告

- ◇開催曜日： 火・木・金
- ◇公園遊び： 月曜日（不定期）
- ◇開催時間：9時～14時

すまいる・高野台では週3回の開催日には平均15～20組の親子が日々利用し、午前中から午後にかけて長時間利用者も多くなった。

定期的に行われているお楽しみ会では、パネルシアターを中心にたくさんの演目を用意し、利用者親子が飽きないように工夫をした。また季節に関連したパネルシアターをやることで日本独自の季節感を感じてもらえたと思う。

石神井の施設と同様、離乳食講座・リトミック・防災訓練などのイベント開催には多くの方の参加があり、好評だった。

こうえんあそびでは、開催地のこうえんまでの距離があり参加されるかたは石神井の施設と比べると少なかったように思うが合同イベントのミニミニ運動会では興味を持って多くの方の参加されていた。

楽しく子育てをしてもらえるように、様々な情報を提供したり、子育てについての思いを共感しながら関わっていききたいと思う。

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

未来こどもランド すまいる相談支援室

利用契約者数 令和2年3月末日現在 280名

職員人数 管理者・相談支援専門員：1名 事務：1名

活動内容

定期的に保護者の方と面接を行いお子さんの今の状況を聞き、利用したい希望のサービス内容を盛り込んだサービス計画案を作成し、他にも必要な場合には情報提供を行ってきた。半年に1回の継続利用者へのモニタリングも行い、利用者の要望を聞くようにする。

また次年度も引き続き、利用者のニーズだけではなく何が必要かを見極め、適切な計画書を作成していきたいと思う。

障害福祉サービス事業

令和1年度 就労継続支援B型 すまいる・フォレスト事業報告書

事業目的 利用者が日々笑顔で毎日を過ごせるように、働く生活を通じて、自立に必要な「生活力・仕事力・余暇力」の知識や技術を育成し、「社会力」を身に付ける事で「自己実現」を目指す。また、集団生活を通じてコミュニケーション能力の向上を図ると共にルールやマナーを身に着ける事で「協調性」を養っていく。

利用定員 1日20名

利用契約者数 17名（今年度退所者3名）

待機登録者数 2名（2020年4月中契約内定者）

職員人数 6名（2020年3月末）

- ・管理者（施設長・社会福祉士）1名
- ・サービス管理責任者（保育士）1名
- ・目標工賃達成指導員1名（介護士）
- ・支援員（非常勤職員・保育士）4名

*2019年6月末…正規職員1名退職 *2019年7月…非常勤職員（月・水・金）採用
*2020年1月末…非常勤職員1名退職

作業・活動計画

◎今年度より、事業所内多機能化を実施していく。利用者個人の年齢や予定在籍年数や特性を考慮して3チーム編成を行い、作業種や時給、支援内容等も配慮していく

* 週間での取り組み

- ・受注作業（クロネコDM便・S字フック封入・パルプ計量・ちっぷ封入・電気部品封入・グローブ作業・フラワーベース制作・シール貼り等）
- ・生産作業（・絞り染エコバック、Tシャツ、ストール・ノート、手帳各種・くるみボタン製品・刺繍製品等）
* クルミルショップからの発注・納品

* 月間の取り組み

- ・販売会出店（ハッピースマイルフェスタ年7回・月～金5日）
- ・ねりいち（月2～3回）
- ・余暇活動 毎月第3金曜日（歓迎会・各種外出・映画鑑賞・ボーリング・登山・新年会・バスツアー等）
- ・身体測定 毎月第2金曜日（体重、血圧）

* 2カ月毎の取り組み

- ・ケース検討会 第1木曜日 PM13:00～18:00（5月・7月・9月・11月・1月・3月・ケース検討会）

* 3 カ月毎の取り組み

- ・作業評価表の作成、利用者面談、個人カンファレンス等実施
- ・避難訓練(不定期、無連絡にて実施)

* 6 カ月毎の取り組み

- ・個別支援計画書作成・工賃検討会議・家族会(9 月、2 月)等

* 法人連携の取り組み(法人連携)

- ・法人内保育園の入園児用バック・卒園児用コサージュ等の制作販売
- ・法人内保育園タオル、ポロシャツ等の刺繍・各種イベント缶バッジ制作
- ・法人学童前等実施(月 1 回 気候等で変則開催)
- ・各事業所の保護者会等で生製品の販売が出来ないか? 相談、検討していきたい

今年度の実施計画

- * 利用者確保…定員数に満たないので今年度も、見学、実習等を積極的に行っていく。

また、1 週間での利用日が 2~3 日の方もあるので支援の充実で日数を増やしたり、余剰定員の確保で日々の利用者数を平均 15~18 名にして行きたい。

- * 受注作業… 柱になる通年の作業種は増えているが、今年度もレインボーワークの共同受注を主に営業活動を行う。その中で、選択して薄利多売の作業種を減らしていく。また、取引先企業との関係を深め、単発作業の受け入れや賃金交渉等も行っていく。

- * 生産作業… 今年度も、現行の製品を主に染物、壁紙、くるみボタン等の制作を行ない、商品開発等も行っていく。また、昨年購入した工業用ミシンを有効的に使う事で商品価値を上げていく。また、東京都のクルマシルショッパへの注文販売の継続や参加する販売会を増やす事で売り上げや作業充実に繋げていく。

- * 余暇活動… 今年度は、職員提案だけでなく利用者さんからのアンケートの実施等で要望にも応えていく。また、個人の事情等で仕事を希望、選択する方の保証も行っていく。

- * 一般就労体験…対象利用者さんには、定期的に法人内カフェの店員体験を毎週火曜日・水曜日・木曜日で行っていく。また、法人内保育所の用務業務等の見学、実習等も検討。レインボーワーク主催の障がい者企業見学会等にも参加していく。

- * 利用者工賃…前年度平均工賃 ¥13,217 に対して、東京都就労継続支援 B 型の平均工賃 ¥15,751 へ近づけていく。今年度目標は平均工賃 ¥14,000。

今年度の作業・活動計画の課題と結果

- ◎ 今年度より、始めた 3 チーム編成での多機能的な取り組みは、1 年間の職員全体の振り返りで見直す事となった。チーム編成による、各利用者の向上心やチーム意識、時給・評価等の事務効率にも繋がると思われたが、現時点では日常的に利用者の優越感や劣等感に繋がる危険性が多く見受けられ、日々の生活の中ではメリットよりデメリットの方が大きいとの判断。しかし、社会そのものが、不平等の競争社会であるのも事実で、それも含めて今後フォレスト全体が充実して満たされた集団となった時は、また実施を挑戦、検討していきたい。

* 週間での取り組み…実施計画にて記載

* 月間の取り組み…販売会は、年 2 回程度だが、新たに「Tジョイ販売会」に参加。余暇の関係は実施計画にて記載

* 2 カ月毎の取り組み…利用者が増えた事もあり、2 カ月に 1 回半日のケース検討会を行ってきたが、利用者に半日で帰ってもらふ頻度や作業時間の減少、準備等の負担も多かったため来年度以降は 3 カ月に 1 回で調整していく。

* 3 カ月毎の取り組み…作業評価表等、昨年度の書式をさらに改善し、全職員での評価を行う予定だったが、年間での利用者が急激に増え、新規利用者に伴う事務・ケース検討会・日常業務等で時間確保が難しく、限られた職員での評価になってしまった。ケース検討会等に充てていた時間を来年度は、評価表の改善、充実に向けた時間にしていきたい。また、避難訓練は、実施頻度が少なくなってしまったので改善していきたい。

* 6 カ月毎の取り組み…全職員による評価表で工賃検討会を実施する予定だったが、限られた職員での評価での工賃決定となってしまったので来年度は出来る様にしていきたい。

* 法人連携の取り組み(法人連携)…

保育園関係は、予定以上の協力があり、大変助かった。学童での販売会も初期は機能していたが、戸外での取り組みによる天候、気候の影響で中止が多くなり調整等での迷惑も考えて年間での取り組みは今後難しいと職員会議で決まる。また、同様に各自主事業所での保護者会等での販売も、準備不足で実施が出来なかった。今後、学童・自主事業所へは、保護者会等に絞って、年間計画等での事前調整をしていく事で実施を目指したい。

今年度の実施計画の課題と結果

- *利用者確保… 利用者数は、17 名からのスタートだったが、半数が精神系の利用者なので週 5 日間の利用が、まだ難しい方が多かった。1 日の平均利用者数が少ない事が課題の 1 つとなっていたが、それらの方々には多少の時間が必要だと思われる。また、年間途中で調子が悪くなり長期入院（2 カ月以上）になるケースからの退所や入所半年程度だった方が、自立を伴う GH と就労継続支援 B 型を併設する新規施設へ行くケース等もあり最終的には 3 名の退所者が出ている。逆に、これまで通り、各専門機関や特別支援学校からの見学、実習等の受け入れを継続していた事で 11 月以降 3 名の新規契約者もあった。4 月以降に 2 名の新規契約の内定者もいるので、来年度は 19 名のスタートとなる予定。

***受注作業…** 受注作業については、レインボーワークの共同受注を中心に新規開拓を行った。お試しで取り組んで契約までいかなかった企業もあったが、通年で取引できる企業が3社になり、必要に応じて単発の作業依頼が来る企業も2社に増えている。特にRe：蘇とは、時期によっては1カ月で¥130,000を超える売り上げとなった。利用者が増えた分、売り上げを増やさなければならなかったが、受注活動全般での売り上げは目標を達成できていた。また、レインボーワークから来年度に向けて4月より石神井図書館の外周清掃の作業が内定しているので今後に繋げていきたい。

***生産作業…** 昨年同様、商品としてはストール、Tシャツ類、エコバッグ、キャンパスポート等の染物、壁紙ノート、クルミボタンのアクセサリ類作り等を主に行った。また、主製品の新規商品を試し、クリスマス、バレンタイン等のイベント商品にも挑戦して、販売会（ハッピーマイルフェスタ・ねりいち等）と東京都のKURUMIRUショップからの発注や法人内での販売、法人の運営するカフェでの販売等で売り上げが伸びた。また、昨年度購入した刺繍機で区内フォルクスワーゲン社との取引が出来、ハッピーマイルフェスタ関係では、三井不動産系の京都のホテル2社からくるみボタン製品の大口購入があり今後に繋がる新たな仕事も出来た。受注作業同様に売り上げ目標は達成出来ていた。

***地域連携…** 地域連携では昨年同様、カフェ作業に利用者が行く事で地域の方との交流に繋がった。来年度は、勤務日や勤務利用者、体験・実習利用者を増やしていきたい。事業所内では、就労希望利用者の対応に伴い池袋ハローワーク、上野の障害者職業センター、レインボーワーク就労部門との繋がりや障害者の職業紹介会社を通じての面接等もおこなう事が出来た。また、長期入院者が切っ掛けだったが、地域の大泉病院や陽和病院とも連絡を取り合える事が出来る様になった。

***余暇活動…** 今年度も、日常作業への励みや目標、生活の潤いを目的に行う。年度初期に「行きたい所」等の利用者アンケートを実施して、職員の提案も織り交ぜて毎月第三金曜日に実施してきた。昨年度、反省に上がった「夏季の暑さ対策」も踏まえて工場見学やオリンピックを見据えて「オリンピックセンター」等を企画、利用者希望の原宿や渋谷、NHK見学等も行った。年度末のバスツアーは、日光で企画していたが新型コロナウイルスの影響で中止となった為に、少し贅沢な昼食（お弁当）&ビンゴ大会を行った。

利用工賃実績表（平成31年度（令和元年度）、月別工賃支給額）

前期月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績額	¥106,866	¥142,253	¥131,298	¥152,419	¥157,328	¥118,585
後期月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実績額	¥125,335	¥147,523	¥154,976	¥135,223	¥138,001	¥910,594

＊平成31年度 平均工賃額…¥13,831

＊受注作業、生産作業共に昨年度に比べて大幅に売り上げ等の収入は増やす事は出来ていた。しかし、利用者を増やし作業日数・時間等を増やしていく課題がある以上、それに伴う作業種と売り上げの確保もまた1つの大きな課題だと思われる。今年度も平均工賃が¥130,000 台を確保出来たが、来年度も引き続き両作業共に売り上げを向上させ、平均工賃の¥140,000 を目指していきたいと思う。

まとめ…

来年度に向けた課題としては、これまで利用者の在籍者数に意識を向けていたが、精神系の方も増える中で1日の利用者人数を増やして行く事に意識を向けていく。地域貢献も含めて、今後も見学・実習等は継続して受けて行くが、利用者の曜日別利用実績をベースにトータルバランスで利用契約を進めていく。必要に応じては23～25名程度までを定員として日々の利用者人数を18～20名にしていく。

受注作業に関しては、一定の人数で出来る作業には限りがあるので、レインボーワークからの新たな作業の紹介をベースに高収入の作業への移行を目指す。現在の取引企業と信頼関係をベースに新たな作業のお願いや賃金交渉、単独営業としては、良好企業から新たな関係企業の紹介等のお願いをしていく。生産作業に関しては、今年度のネームバリューアップのフォルクスワーゲン社との取引や三井系ホテルの受注継続や関係ホテルの紹介等を行いながら、現状のハピースマイルフェスタ、ねりいちの販売会を主にTジョイ販売会のような参加可能な販売会を模索しながら法人内の協力等にも引き続き力を入れる。商品開発も主力の3部門だけでなく、食料品や年間でのイベント商品を企画・試作等を行っていく。またその中で、在庫管理の徹底や部材コスト、購入等も意識して収支に見合う商品開発を目指す。

その他に地域連帯、余暇活動、就労実績等の仕事でも様々な細部の課題等は見受けられたが大きな反省として、正規フルタイム職員1名と非正規フルタイム職員1名の途中退職があった事が上げられる。利用者が増えた分、職員も増えたが方針に準じた意思疎通やコミュニケーションが足らなかったと思われる。役割分担をして役割に責任を持って取り組んでもらう事が途中退職でバランスが崩れてしまった事もあり、職員に必要以上の負担とストレスが見られた。（補充はあったが、すぐに役割を担ってもらう事は難しかった。）来年度以降は、職員配置と定着の安定を課題にする事で、コミュニケーションの時間も意識しながらより良い職員関係を築いていきたい。その中で、職員に合った役割分担を行い、機能させることで今年度滞った仕事上の課題等を改善していきたいと思う。

公益事業

地域交流拠点事業

(令和1年度) みんなのカフェ すまいる・VIVIFY 事業報告

事業目的

VIVIFY の意味合い「人を生き生きさせる」「輝かせる」「生気を与える」というように地域みんなが生き生きと笑顔で暮らせることを願い、カフェを通じて地域住民同士の触れ合いの場、一人一人が自分の時間としてゆったり過ごせる場所であり、公益事業として申請をしたことにより、地域住民に対する貢献的な働きを求められている。

営業日 年中無休（11時～17時） 土日祝 12時～17時半

*今年度より、年中無休として、地域への周知と共に、お客様を増やす努力をした。結果売上も上昇。（グラフ参照）

実施内容

ドリンクと食事の提供

ドリンク（ホット）メニュー7種 ドリンク（アイス）メニュー5種 アルコール コロナビール

食事メニュー フランクフルト、ワッフル、トルティーヤチップス

隣のピーターパン（パン屋）とカシュカシュ（ケーキ屋）の商品（飲み物以外）の持ち込みを可とする。

パンは温めサービスを実施、ケーキもお皿とフォークを提供する。

*セットをやめて、フードをすべて単品にすることによって、注文が増えた。テイクアウトも良好。

レンタルスペース

平日は1時間 1000 円 3 時間まで 土日祝は1時間 2000 円 2 時間まで 1 時間延長は 3000 円

地域の方とのコラボ

カレーデイに参加（3年目）11月の売り上げに貢献している。

*スポンサーのインデラカレーの代表取締役が注文してくださり、とても美味しかったと言っていた。

来年も引き続き行ってほしい。石神井公園に、こんな、お洒落なカフェがあるとは知らなかったとのこと。

継続する事での周知やリピーターが増えた。

イベントの実施

ミニコンサート実施。地域の演奏者やバンドの土日のイベントになっている。

*レンタルボックスのメンバーと一緒にワークショップやイベントを企画 10月26日（土）ハロウィンイベント実施

美大卒のボランティアさんなど新規のメンバーも参加した。



ワークショップも時間帯を分けて実施し、20組程度の参加となる。すべてワークショップは500円～1000円とした。ドリンク全てテイクアウト用のドリンクケースにすることで、手間が省けた。



～ハロウィンイベントの様子～
レンタルボックス

地域の作家さんに1か月の管理料を500円で、10ブースある。アクセサリー キーホルダーなど手作り

のものが置かれて、華やかなブースになってきている。

現在は3か月間を基本に待機予約をしてもらっている。順番で一度離れても再度待機をしてくれる方が多い。毎日営業することで、レンタルボックスの作家さん自身の売上も昨年度より上昇している。

ブース席の利用

＊ワークショップの場として、法人内の打ち合わせ場所として、友人とのおしゃべりの場としてというように利用が増えてきている。周知されることでリピーターが増えた一方で、予約すれば、無料で利用できるため、ドリンク一杯で営業開始から終了時まで利用しているグループも出てきた。さりげなく、おかわりなどを勧めていきたい。

すまいる・フォレストとの連携

今年度より、体験ではなく就労継続支援 B 型 すまいる・フォレストとの連携を外部就労という形で行った。

利用者がカフェの店員として働く（外部就労）利用者2名が定期的に勤務。体験では他2名実施。

お客様によっては、きちんとした対応ができていないことによる不満も出てきてしまうため、カフェ店員の仕事をしっかりとできた人でないとお店の信用にかかわってくるとのこと。

すまいる・フォレストからの利用者は選別していくことになり、後半は2名のみとなった。

お客様の中には、障害者支援への意識の高い方もいて、応援を兼ねて常連になってくれている。

利用者と地域住民との交流にもつながる。

フォレストの生産品を置かせてもらい売り上げに繋げていく。今年度は年間で **51,300 円** の売上となった。

来年へ向けての課題

売上上昇のための努力をしていく。その他イベントや地域住民との交流の機会を定期的の実施し、カフェを知って気に入ってもらうとともに来客数を増やしていきたい。リピーターを増やす。

フォレストの利用者の店員と地域の方との橋渡しを意識していく。（共生社会につなげていく）

平均売上 **5,526 円/日**



